

交流研修会 in 東北町

す こ か わ か

第 20 号

おいらせ町
保健協力会

発行責任者
武田裕子
会員数 192 名



令和 5 年 11 月 16 日

交流研修会に参加して

(若葉) 櫻庭 幸子

令和五年、十一月十六日東北町町民文化センターに於いて、東北町とおいらせ町の保健協力員、合わせて五十名程の参加で交流研修会が行われました。

研修会はず、東北町保健協力員協議会会長の駒嶺詔子様の挨拶、次いでおいらせ町の武田裕子会長の挨拶へと続き、それぞれの保健協力会の活動発表、ゲーム、おしゃべりタイムへと進行しました。

活動発表の中で、東北町の「モンベベサロン」という初めて耳にするお洒落なネーミングの活動がありました。モンベベとは、フランス語で「私の赤ちゃん」の意。その活動内容は産前産後のサポート事業で、特に六ヶ月児健康相談や、三歳児健康診察の際の赤ちゃんのお世話や手助けが主な役目の地域性のある活動でした。

さて、交流会最後のプログラム、ゲームとおしゃべりタイムは盛り上がりしました。ゲームの内容は東北町・おいらせ町の混合チーム六班に分かれ、新聞を細長くカットして輪を作り、それを繋げて鎖状にして長さを競う制限時間内での熱戦。ゲームはお互いの心を通わせ楽しい交流会となりました。

この後、東北町保健協力会の皆さんに見送られてバスに乗り町民文化センターを後にしました。

会場全体



農家レストラン
『まなか』集合



輪っなぎ

優勝チーム



食事



けいらん

三八地方保健協力員連絡協議会研修会に参加して (下前田) 山内美知子

★令和 5 年 10 月 31 日 (火)

★八戸総合卸センター一階コネクトホール

一 説明及び情報交換

① 「心を動かす健(検)診のススメ(第2版)」を活動に活かそう!

● 説明者 保健活動推進専門員 山口 久美子氏

コロナによる行動制限も緩和され保健協力員の活動も対面でできるようになってきました。

そこで、心を動かす話し方聴き方のポイントやその具体例について学びました。

② 各市町村の「心を動かす健(検)診のススメ第2版」活用状況

● 進行 三戸地方保健所

各市町村からそれぞれ報告がなされ、本町からは村田副会長より四月の保健協力会健診説明会やチラシ配付等について報告していただきました。

次に、席が隣り合った者同士で住民と保健協力員とに分かれ、ロールプレイングを行いました。

忙しくて健診に行けない人や便を取るのが面倒だと大腸がん検診を受けない人等の話に耳を傾け、その人に合った勧め方を学んだように思いました。

二 講演

「国民健康保険制度における特定健康診査・特定保健指導」

● 講師 青森県健康福祉部 国保・高齢者医療グループ

総括主幹 池田 安克氏

保険料(税)は高いと言われるが、病気になるなら適切な受診をすることで医療費を少なくし、医療費適正化を図ることが出来ます。

県ではインターネットに広告を出す・効果的な受診勧告をするモデル事業の選定等の事業を展開しています。更に各市町村でも計画を立てて推進しています。

健診等の受診率のグラフを見ながら、もう少し地域の人の背中を押していけるようにしなければなりません。

思い込みを減らして

